

- 本科一・二年生用 漢文練習プリント①
 ○ 漢文訓読（漢文を読む方法）を学ぼう

漢文は中国の古い文章ですが、日本では訓読という方法を発明し、中国語である漢文を日本語で読む方法を生み出しました。今回は訓読の基本となる返り点について学びましょう。

【送り仮名】

天朗気清
ほが カニ
さよ シ

○ で囲われたひらがなの部分は「読み仮名」（漢字の読み方）です。

○ で囲われたカタカナの部分は「送り仮名」です。

右の文の場合「天朗らかに気清し」となります。漢文訓読は、縦書きの日本語文と同じように、上から下に読むのが基本です。

【返り点】（○内が返り点）

漢文と日本語は語順が異なっていることが多くあります。この場合、そのまま上から下に日本語で読むことができないので、「返り点」という記号を漢字の左下につけて、読む順番を表します。「返り点」にはレ点、一二点、上下点などがあります。

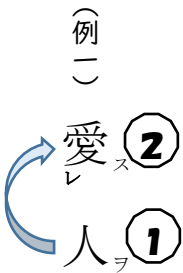
低^レ頭^ヲ 思^フ三^ニ故^ニ郷^ヲ
 （頭を低れて故郷を思ふ）

主要な返り点

- ・「レ点」・・・下の字からすぐ上の字に返って読む。
- ・「一二点」・・・上の字に二字以上返って読む。
- ・「上下点」・・・一二点を挟んで、上点から下点に返って読む。

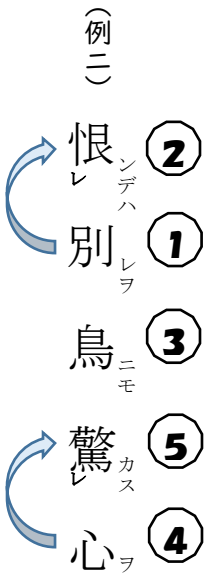
【次のページに続きます】

●【レ点】下の字からすぐ上の字に返って読みます。



例一の場合

「レ点がついているので「愛」を読まず、下の字「人」を読む(①)
口すぐ上に返って「愛」の字を読む(②)。
口つなげると「人を愛す」と読むことができる。

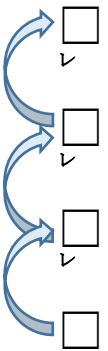


例二の場合

「レ点がついているので、「恨」を読まず、先にすぐ下の「別」を読み、次に上に返って「別」を読む。(①)
口次に上から下に読む原則で、「鳥」を読む(②)。
口レ点がついているので、「驚」を読まず、「心」を先に読み(③)、次に「驚」を読む。(④)
口つなげると、「別れを恨んでは鳥にも心を驚かす」と読むことができる。

【練習問題】次の四角(□)内に読む順番を書きましよう。

(一)



(二)



【次のページに続きます】

練習問題答え

(一)

4

3

2

1

(二)

1

3

2

5

4

●【一二(三)点】上の字に二字以上返って読みます。一点の次に二点を読み、三点があれば次に三点を読みます。

(例三)

懸^{ケテ} 羊 頭^ヲ
ニ 二 一 二

例三の場合

「二点がついているので、「懸」を読まず、返り点のついていないすぐ下の「羊」の字を読む(①)。
「一点がついている「頭」の字を読む。(②)
「一点の次は二点を読むので、二点がついている「懸」の字を読む(③)」。つなげると「羊頭を懸けて、」と読むことができる。

(例四) 二字の熟語に返って読む場合(…ハイフン)

三^ス 省 吾^ガ 身^ヲ
三 二 一 二 一

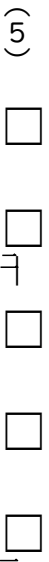
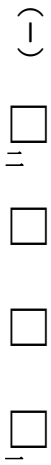
例四の場合

「二点がついているので、「三」の字は読まず、「一」(ハイフン)「二」がついているため、「省」の字は読まない。「三省」という熟語)
「まず、反り点のついていない「吾」を読む(①)。
「一点がついている「身」の字を読む(②)
「一点の次は二点を読むので、二点がついている「三」の字を読み(③)、ハイフンがついているすぐ下の「省」の字を読む(④)。

【次のページに続きます】

● 練習問題 (レ点・一二点)

【練習問題】 次の四角(□)内に読む順番を書きましょう。



【練習問題 答え】

